

ドクターメモ

長引く咳せき

自己判断せず受診しましょう



3週間以上咳が続く場合は近くの医院または、病院を受診し、胸部X線や呼吸機能などの検査を受けるほうがよいでしょう。肺炎や胸膜炎、結核、肺がん、気胸、心不全などはこの段階である程度診断がつきます。これらの病気はそのままにしておく症状が進行してしまう可能性があるのです、できるだけ早く診断を受けることが重要です。呼吸困難の発作を伴う典型的な気管支ぜんそくも、診断はそれほど難しくありません。

この段階で診断がつかない咳の原因としては、副鼻腔気管支症候群、咳ぜんそく、アトピー咳嗽がくせきなどがあります。これらの病気は8週間以上続くこともしばしばで、咳以外に明らかかな症状がないことや、かぜをひいたことをきっかけに発症することが多いなどの共通点があります。副鼻腔気管支症候群は、たんが出ることが特徴で、慢性副鼻腔

炎を伴うことが多い病気で、咳ぜんそくとアトピー咳嗽は、たんがほとんど出ず、気管支拡張薬で効果があれば咳ぜんそく、効果がなければアトピー咳嗽の可能性が高くなります。どちらにも有効な吸入ステロイド薬などが処方されることもあります。

これら以外にも、胃食道逆流症や誤嚥ごえん、薬の副作用としての咳、アレルギー性鼻炎などさまざまな原因が考えられるので、咳が続く場合は、「かぜが長引いている」と自己判断することなく、受診することが何よりも大切です。

吹田市医師会

長ちやう澄すみ人と